第65回

IEEJエネルギーウェビナー

2024年1月10日

# フーシ派によるイスラエル関係船への攻撃

一般財団法人
日本エネルギー経済研究所
中東研究センター

副センター長・研究理事　坂梨　祥
sakanashi@jime.ieej.or.jp

© JIME-IEEJ

# 内容

I.　はじめにーー対立の構図

II. フーシ派による船舶攻撃

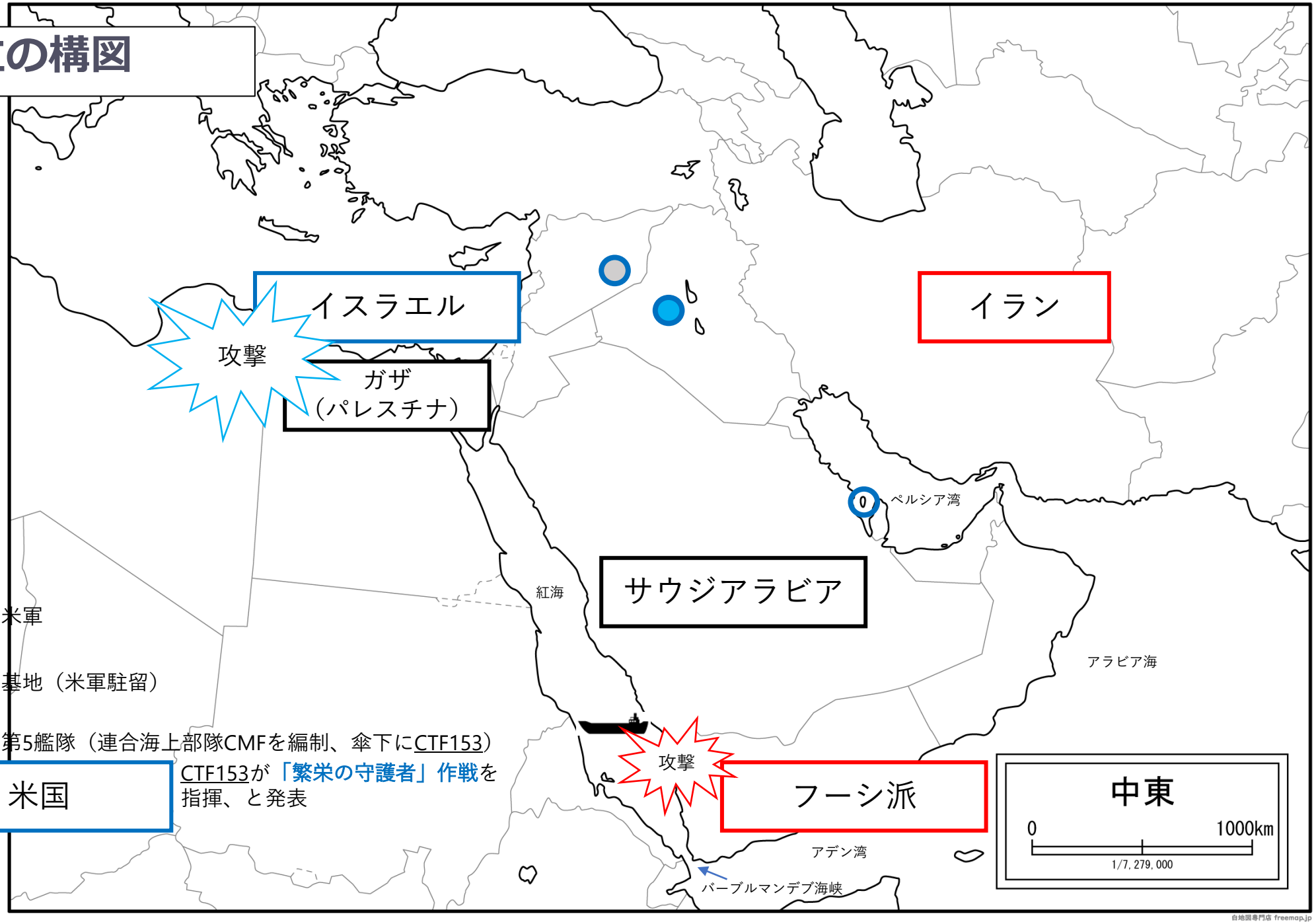
III.米国の対応

IV.イランの思惑

V.　おわりに

© JIME-IEEJ

# I.　対立の構図




シリア駐留米軍

アサド空軍基地（米軍駐留）

米中央海軍第5艦隊（連合海上部隊CMFを編制、傘下にCTF153）

米国

CTF153が「繁栄の守護者」作戦を指揮、と発表

# I.　対立の構図（フーシ派による船舶攻撃の文脈）

- イスラエルのパレスチナに対する圧倒的優位　⇒　10/7のイスラエル攻撃を契機に紛争が発生
  - 米国はイスラエルのガザ攻撃（ハマス殲滅作戦）を支持
  - 一方で国連総会は、（人道的観点から）ガザをめぐる即時停戦を求める決議を採択（2023/12/12）
  - 南アフリカは、イスラエルのガザ攻撃は「ジェノサイド条約違反」として国際司法裁判所（ICJ）に提訴（2023/12/29）
  - イスラエルはガザ攻撃を継続
    - 攻撃の目標は3点：①人質全員の解放、②ハマスの軍事・統治能力の破壊、③ガザからの軍事的脅威の除去（2024/1/4, ガラント・イスラエル国防相発言）

- フーシー派はイスラエルによるガザ攻撃の停止を求め、イスラエル関係船への攻撃を宣言
  - 2023年11月19日以降、少なくとも23回の攻撃を実施（2024/1/4, 米政府発表）

- 米国は「繁栄の守護者作戦（Operation Prosperity Guardian）」を開始（2023/12/18発表）
  - 日本を含む12カ国と連名で、フーシ派非難の共同声明を発出（2024/1/3）

© JIME-IEEJ

# II.　フーシ派による船舶攻撃

- フーシ派（アンサール・アッラー／アッラーの支持者）とは
  - イエメン北部を拠点とする、ザイド派（シーア派の一派）の復興を志す組織
  - 2004年に蜂起
  - 2014年9月にイエメンの首都サナアを占拠、2015年1月に実権を掌握
  - 2015年3月以降、イエメン内戦への介入を開始したサウジアラビア主導の連合軍と戦闘
    - 現在では停戦に向けた国連主導の取り組みが継続

- フーシ派の軍事力
  - イエメン内戦（2015年～）以降、急速に強化／兵員数は20万名とも
    - 2023年9月の軍事パレードではF-5戦闘機の飛行も披露
    - 海軍の戦力も増強（ヘリコプターを用いた商船の拿捕も可能）
  - 対イスラエル（およびイスラエル関係船）攻撃での使用武器
    - 巡航ミサイル・弾道ミサイル・ドローン

- フーシ派の思惑：イスラエルによるガザ攻撃の停止、イエメン国内でのプレゼンス強化

© JIME-IEEJ

# III.　米国の対応

- 米国の立ち位置
  - 米中央軍（CENTCOM）指揮下の米中央海軍が中東地域の海洋安全保障を担う
    - 1971年の英国の「スエズ以東撤退」以降、バハレーンの（英海軍の）施設を継承
    - 1995年：中東地域を管轄する第5艦隊（兵員1万5千人前後）が新たに編成
    - 2002年：多国籍部隊である連合海上部隊（CMF）が編制（日本も一員）
    - CTM傘下には5つの連合任務部隊（CTF）：CTF150～CTF154が設置
      - CTF151：海賊対処が主任務（日本は2013年に参加）
      - CTF153：紅海・バーブルマンデブ・アデン湾を管轄
- 「繁栄の守護者」作戦は、 CTF153が主導
  - 米政府は、「すでに20カ国が参加を表明」と発表
- 現時点（2024/1/6）での「繁栄の守護者」作戦参加国：
  - 米、英、加、豪、バハレーン、デンマーク、ギリシャ、オランダ、ノルウェー
    - 名前の挙がっていたフランス、スペイン、イタリアは、同作戦への参加を否定
  - これ以外の参加国は「匿名で参加」（参加の事実を公にせず）

# IV.　イランの思惑

- イランは1979年の革命以降、「抑圧との闘い」と「米国への対抗」を掲げる
  - イスラエルの占領下にある「抑圧された」パレスチナ人への支援も主張し続ける
  - 「抑圧への抵抗」を掲げ、各地の抵抗勢力（＝親イラン武装勢力）を支援
    - 抵抗勢力の例：レバノンのヒズボラ、イエメンのフーシ派、イラクの人民動員部隊
    - 抵抗勢力支援の目的：対イラン攻撃抑止の側面も

- イランは今日、イスラエルのガザ攻撃を強く非難
  - イスラエルによるガザ攻撃を止める必要を強く主張

  ⇒　各地の抵抗勢力は、それぞれの「持ち場」で対イスラエル牽制行動を活発化

- 米国との協議も模索？
  - バイデン政権との「イラン核合意再建交渉」はロシアのウクライナ侵攻を受けて頓挫
  - しかし、2023年9月には米・イラン間で囚人交換が成立、資産凍結解除も一部実現
  - 2023年10月にはオマーンを舞台に核に関する協議も予定→ガザ紛争で頓挫

- 米国との直接／間接協議は、対イラン制裁解除に不可欠

© JIME-IEEJ

# V.　おわりに

- フーシ派は、「イスラエルによるガザ攻撃の停止」を求め、「イスラエル関係船」を攻撃
- フーシ派への対抗（≒イスラエル権益の保護）への協力は、アラブ諸国政府には困難
  - アラブ諸国の民衆は、パレスチナ人に深く同情
    - オースティン米国防長官は「罪のない船員を危険に晒す」フーシ派の攻撃を非難
    - アラブ諸国の民衆は、「罪のないパレスチナ人を危険に晒す」イスラエルのガザ攻撃に反発、それを容認する米国も疑問視
- フーシ派の攻撃を力で抑え込むことは困難
  - 参考：2015年3月にイエメン内戦に介入したサウジアラビアは、武力による問題解決をすでに断念／現在はフーシ派との和平を模索中
- すなわち、フーシ派による船舶攻撃の停止には、イスラエルによるガザ攻撃の停止が有効
  - （イスラエルによるガザ攻撃をめぐる）今後の注目点
    - 南アフリカの提訴を受けたICJでの口頭弁論（1/11-12）
    - ISの動向（2024/1/5にイランで大規模なテロ：ISによる「参戦表明」？）
    - 米国とイランの（間接）協議の可能性

# ＜参考＞11月19日以降の船舶への攻撃①

| 日付 | 船名（船籍） | 攻撃を受けた場所 | イスラエルとの関係 | 攻撃の詳細 |
|---|---|---|---|---|
| 11/19 | Galaxy Leader | 紅海 | ○ | 乗っ取り（拿捕）、Mi-17型ヘリを使用 |
| 11/24 | CMA CGM Symi | インド洋 | ○ | ドローン（米国はイラン製と発表）攻撃 |
| 12/3 | Unity Explorer | 紅海 | ○ | 対艦ミサイル、船舶は一部損傷 |
| 12/3 | Number 9 | 紅海 | | 対艦ミサイル、船舶は一部損傷 |
| 12/3 | Sophie II（所有者は日本企業） | 紅海 | | 対艦ミサイル、船舶は一部損傷 |
| 12/12 | Strinda（ノルウェー） | 紅海 | ○ | 対艦ミサイル＋ドローン攻撃、火災発生 |
| 12/13 | Ardmore Encounter | 紅海 | △ | 対艦ミサイル＋ドローン攻撃、護衛艦USS Masonに対してもドローン攻撃（撃墜） |
| 12/14 | Maersk Gibraltar | 紅海 | △ | 対艦ミサイル（失敗） |
| 12/15 | Al Jasrah | 紅海 | | ドローン攻撃、火災発生 |
| 12/15 | MSC Palatium III | 紅海 | △ | 弾道ミサイル（被弾）、火災発生 |
| 12/16 | USS Carney（米駆逐艦） | 紅海 | △ | ドローン波状攻撃（米軍艦が14機撃墜） |
| 12/18 | Swan Atlantic | 紅海 | | 弾道ミサイル・ドローン攻撃、火災発生 |

© JIME-IEEJ

# ＜参考＞11月19日以降の船舶への攻撃②

| 日付 | 船名（船籍） | 攻撃を受けた場所 | イスラエルとの関係 | 攻撃形態 |
|---|---|---|---|---|
| 12/23 | Blaamanen（ノルウェー） | 紅海 | | 自爆型ドローン |
| 12/23 | Saibaba | 紅海 | | 自爆型ドローン |
| 12/26 | MSC United VIII | 紅海 | | 一時乗っ取り、対艦ミサイル、船舶付近で複数回の爆発（海自艦からも至近） |
| 12/27 | 米艦・海自護衛艦あけぼの | 紅海 | | 10カイリ先に弾道ミサイル2発着弾 |
| 12/30 | Maersk Hangzhou | 紅海 | | 対艦ミサイル（被弾）乗っ取り（失敗） |
| 1/1 | Maersk | 紅海 | | 乗っ取り（失敗） |
| 1/5 | 2隻の船舶 | モルジブ近海 | ○ | ドローン攻撃 |
| 1/6 | 商業船舶（船籍不詳） | モカ港南東 | | 小型船6隻が接近、無人機攻撃も |
| 1/5 | 輸送コンテナ大手Maersk（マースク）は、自社が管理する全ての船舶について、紅海からアフリカ南部の喜望峰を回る航路に切り替えることを発表。 | | | |
| 1/5 | フーシ派報道官は、「いかなる国も紅海における米主導の有志連合に関与すれば海上の安全保障を失い標的にされる」と発表。 | | | |

© JIME-IEEJ